

修学旅行だより～未来へのバトンは、わたしたちが！～

7月2日～3日、お天気が心配でしたが、広島では青空が広がり、暑かったけれどさわやかな風も流れ、無事修学旅行へ行ってきました。

もともとは5月でしたが、緊急事態宣言の発令で延期していました。6年生は、昨年度宿泊行事を実施していませんし、今年度の春からは、平和学習を進めてきています。また、音楽室からは毎日のように「平和の鐘」や「折り鶴」の歌がきれいな声で聞こえていました。実際に広島を訪れ、平和記念公園や資料館をみて、平和学習の仕上げをさせてやりたい、でも、感染症対策をどこまで徹底できるだろう・・・と、関係教職員との話し合いや受け入れ先への問い合わせを何度も行いました。決め手となったのは、最近の豊中市や校区の状況、広島の様子から、コロナウィルスの陽性者の数が落ち着いていること、そして、広島を見せたいという教職員の思いでした。それで、とれるだけの感染予防対策を考えて、実施することになりました。

当日は朝から保護者の方もたくさん見送りに来てくださり、危ぶまれた雨もあがっていました。バスや新幹線での移動中はみんな約束を守って、とても静かでした。ただ、一度だけ、新幹線の窓から姫路城が見えた時は、ざわめきました。広島電鉄は、感染予防のために北丘小学校6年生のために一両借り上げました。「貸し切り」の車両が入ってきた時は、拍手が起こっていました。

平和記念公園に着くと、すぐに「原爆ドーム」があり、こどもたちが息をのんで見つめていました。すぐに、原爆の子の像の前で、セレモニーを行いました。平和記念公園はとてもすいていたので、ゆったりと行うことができました。北丘小の他に大体5～6校が訪れていたように見えました。こどもたちのきれいな歌声が響き、近くにいた観光の方々が聞きほれて耳を傾けていました。平和資料館は、リニューアルされていました。以前よりもっと、広島で被害を受けた方々個々人に迫っていて原爆の恐ろしさ、悲惨さと悲しみがリアルに、身近に感じられるようになっていました。こどもたちは班で見学していました。こどもたちは、出発式で「未来へのバトン」という言葉を使って、「学習のまとめをします。」と言っていました。帰校してからの「修学旅行報告会」が楽しみです。

宿舎である「広島県民の浜～輝きの館～」は、浜辺のすぐそばで、デッキから穏やかな瀬戸内の海が臨める美しい場所にありました。芝生が良く手入れされていて、ここで海をバックにみんながジャンプをしている写真を撮っています。卒業アルバムに入るのでしょうか？どんな写真になっているか今からわくわくします。

宿舎での食事は、広い部屋で全員デッキへの扉の方（海の方）を向いて黙って食べました。ひとり一人の間はアクリル板で仕切られていて、これが今後コロナ禍での宿泊行事での食事のスタイルになるのだなあとしみじみ思いました。昨日も平和記念公園で昼食に「広島焼」を食べた時も、公園の木陰で、教室と同じように全員同じ方向を向いて黙々と食べていました。

買い物の時間は、特に子どもたちは楽しみだった様子で、「おばあちゃんに」「弟に」「これはお母さんの、これはお父さんの」など自分のものはさておき、家族や大事な人へのおみやげを選んでいました。限りあるお小遣いでしたので、計算を一生懸命にして、またレジで、お金が実際には足らなくて何を除くのか思案している様子もありました。

体験学習は、「藻塩づくり」「浜遊び」「カッターボート」とあり、どれも楽しそうでしたが、特に、「カッターボート」の体験は、子どもたちの心に残ったのではないのでしょうか。8～9人のグループで一艘ずつのボートに乗り、両サイドに座った児童がオールを持ちました。オールの数は左右合わせて6本だったと思います。「オーエス、オーエス」の掛け声を出して、漕いでいきます。6本のオールがそろった動きをしてうまく海水を捉えているとぐいぐい進んでいきました。順調に進むチーム、なかなかオールの動きがそろわないチームなどチームによって様々でした。レースを行ったので、優勝したチームは大変うれしそうでした。優勝したチームも優勝しなかったチームも、やりきった実感があつたようでした。チーム全員の呼吸を合わせながら全力を出すことや大きな声をそろえて出す経験（チームワークをとる経験）が短い時間の中で叶った体験でした。

親元を離れて、友だちと協力しながら二日間の学習を終えて、子どもたちはどんなことを考えたでしょうか。充実した二日間だったでしょうか。きっと心が一回り成長したことと思います。修学旅行の経験を今後の学校生活に活かし、仲間と共に学習することの楽しさと意義を感じながら、なかまとつながろうとする力を育てていってほしいと思います。



原爆の子の像



県民の浜～輝きの館～から海の方を望む